

砂川市少年の主張大会

主張全文紹介①

最優秀賞「受け継いでいく伝統」

砂川中学校 2年 川村 月奈



私は、今年で14歳になりました。数々の大切な思い出を胸に、中学2年生として現在を歩んでいます。その中で最も印象に残っている出来事は、中学校の統合のことでした。

小学校生活の6年間は、全学年合わせて50人ほどの人数でしたが、毎日が楽しく充実した学校生活を送ることができました。しかし、小学校を卒業し、次に進学する中学校は、私たちが入学するときに、石山中学校と砂川中学校の2校が1校に統合することになっていました。スクールバスで中学校まで通学することに楽しみがあった反面、統合する新しい中学校で、自分自身がうまくやっていけるのか、不安や心配がありました。

入学式の日、新しい砂川中学校の校門をくぐり、今日から砂川中学校の生徒になることを心から実感しました。友達も少しずつできて、部活動の先輩方も優しく接してくれて安心して、新しい中学校生活が始まりました。

1年経った今、入学当初より友達が増え、勉強や部活動にも力が入り、私の学校生活は日々充実しています。

2校が統合したこの砂川中学校の伝統は、「挨拶」「歌声」「思いやり」の3つの柱です。生徒会活動のスローガンとして大切にしているものです。「挨拶」は、いつでも誰とでも明るく元気な挨拶をみんなが心がけています。「歌声」は、行事での校歌、生徒会主催の歌声集会や学校祭での合唱コンクールの際に、生徒全員が声を合わせて歌うことで、学校全体の連帯感を強く感じることができます。「思いやり」は、新しい仲間とスタートを切った1年生のときから、先輩方や仲間たちが、相手を気にかけて声をかけてくれたり、手伝ってくれたり、仲間の思いやりにいつも支えられ、心強く感じています。

2年生になった今、振り返ってみると、1年前の入学するときの統合の不安は、実際には感じることはありませんでした。この仲間に出会えて本当によかったと思っています。新しい仲間が増えること、新しい仲間と共に支え合えること、これが、学校統合の良さだったのだと感じています。これからも仲間と共に支え合いながら、充実した中学校生活を送り、たくさんの思い出と共にこの砂川中学校を卒業していきたいです。

砂川中学校は、令和8年4月には、校舎も立派になり、小学校と中学校とが一緒になった砂川学園として新しく生まれ変わります。9学年の全学年が協力し合い、困ったことがあれば共に助け合うことで、一人一人が成長していく立派な学校になることでしょう。残念ながら私たちの学年は、令和8年3月に中学校を卒業するため、砂川学園で学校生活を送ることはできません。今の中学1年生が、そのときに9年生という最上級生としてスタートを切ることとなります。だからこそ、私たちが今の砂川中学校の良き伝統を受け継ぎ、そして後輩の1年生へと託していくことが大切なのです。

後輩の1年生へ。砂川学園の9年生になったときには、小学1年生から9年生までいるという、とても大きな学校になります。特に1年生を始め下級生は、私が中学校統合で不安になった以上に、新しい学校生活での環境の変化に追いつけない子や、人間関係の悩みを抱える子が多くなるかもしれません。そんなときは、最上級生として、学校全体の子どもたちを優しく思いやりをもってリードして行ってください。学校中の誰もが、最上級生を注目し、頼りにするはずで、そのとき立派な姿で対応し、みんなに安心感を与えてほしいです。そうなれるよう今の砂川中学校から、自覚をもってください。仲間を大切にしながら学校生活を送り、立派になって行ってほしいです。現砂川中学校の三本柱である、「挨拶」「歌声」「思いやり」は砂川学園になっても大切に、活躍していくことを期待しています。これが私たち2年生から1年生へと伝えたい思いなのです。

審査員の講評

石山中学校と砂川中学校の統合をとおして、期待と不安の中で、受け継がれていく伝統の重さを感じました。